

## 高森邦明先生退官記念号の刊行に寄せて

湊 吉 正

高森邦明先生は、1930（昭和5）年6月15日、広島県で生を享けられました。

1953（昭和28）年3月、広島大学教育学部を卒業されると同時に、広島県下の高等学校に勤務されました。さらにその後、先生は、研究への志を立てられ、1955（昭和30）年4月、東京教育大学大学院教育学研究科教育学専攻人文科教育専修修士課程に入学され、石井庄司先生はじめ広く教育学の諸分野の先生方の教えを受けられることになりました。修士課程修了（修士論文「英国における国語教育理論—国語教育学の性格研究—」）の後、さらに博士課程に進まれ、1962（昭和37）年3月、単位取得退学されまして埼玉県下の高等学校に勤務されました。

1967（昭和42）年4月、富山大学教育学部講師に就任され、国語科教育学を担当されることになりました。その後、助教授、教授と昇任されましたが、1978（昭和53）年4月、筑波大学教育学系教授として迎えられ、今日まで16年間にわたり一意専心、研究と教育の道を歩んでこられました。

筑波大学教育学系では、東京教育大学から移行した私や栗原隆先生とともに、教科教育学領域人文科教育学分野に所属され、人間学類において児童文学論・作文教育論の授業を担当されたほか、教職科目の国語科教育法なども担当されました。大学院修士課程教育研究科では、国語教育コース科目の国語科教育学・国語科授業分析・作文教育論・文学教育論などの授業を担当され、大学院博士課程教育学研究科では、人文科教育学の特講や演習を担当されました。これら担当されたすべての授業において、先生は誠実に全力をあげて学生の指導に当たられ、大きな教育的成果をあげられて多くの個性あるすぐれた研究者、実践家の育成に貢献されてきました。各地から派遣された現職の研究生に対しても、長年にわたり熱心に指導してくださいました。

先生はまた、大学内で厚生補導審議会委員（人間学類選出）などを勤められました。とりわけ大学院修士課程教育研究科に関しては1973（昭和53）年以降のその草創期の数年間にわたり国語教育コース代表を勤められ、その後の国語教育コース発展の地固めをされたことは特筆すべきことでもあります。さらに、日本国語教育学会理事、全国大学国語教育学会理事・編集委員を長く勤められ、また近年、日本こどもの本学会発足に当たってその副会長に就任されるなど、学界でも大いに活躍されてきました。

先生は、国語教育学の広い範囲にわたり数多くの著書・論文をまとめられて学界に多大な貢献をされてきました。国語教育史、作文指導論、国語科学習指導論、児童文学論等、多岐にわたりすぐれた業績をあげられてきました。国語教育史の面では、特に大正・昭和初期における生活表現の綴り方を中心に研究を進められ、1994（平成6）年3月には学位論文「大正・昭和初期にお

ける生活表現の綴り方の研究—東京高師附属小学校教師の実践と理論—」によって博士（教育学）を取得されました。作文指導論の面では、言語生活的作文を提唱されたこと、国語科学習指導論の面では、国語科指導技術の体系化の試みを提示されたこと、児童文学論の面では、特に児童文学教材の理論と実践に関して研究を推進されたこと等、学界でよく知られているところであります。さらに、先生がお若いころの豊かな文学創作の体験をお持ちであること、そして今日まで随筆、和歌、俳諧の面で注目すべき作品をいくつか発表されてきましたことも、人々の知るところであります。

我が道を行くという固い信念の持ち主である先生が、これからも健康に留意されて先生御自身の研究の道を探究されてゆかれますようお祈り申しあげまして、このつたない御紹介のことばを結ばせていただきます。

（以上は、平成6年3月4日、筑波大学大学会館国際会議室で開催された第16回ペスタロッジ祭第Ⅰ部〈筑波大学教育学系・筑波大学教育学研究会共催〉における高森邦明教授最終講義の際の高森教授に対する御紹介のことばに多少加筆させていただいたものである。）